



喜多埜

御旅社七夕祭のご案内

本年も七月六日～七日の両日にわたって、茶屋町の御旅社にて、七夕祭を斎行致します。七夕は大陸の牽牛織女（彦星と織姫）の伝説と日本古来の天棚機比売（あめのたなばたひめ）の伝説とが相まって生まれた信仰といわれ、技芸の上達、恋愛成就を願う日とされ、笹の葉に願い事を記した短冊を結び星に祈りを捧げました。

当神社の御旅社において執り行われる七夕祭は、京都の北野天満宮に七月七日に行われる「御手洗祭（みたらしさい）」に倣い、神前に書道具を並べ供え、氏子崇敬者をはじめ参拝者みなさまの学問書道の上達を願い、また、御手洗の字の如く、心身の清浄を祈願致します。また、末社に玉姫稻荷神社という縁結び、女性守護の神さまをお祀りする所以から、縁結びにも御利益あらたかなるといわれ、特に若い女性からの信仰篤く、毎年、七夕祭の日には大変な人出で賑わいます。当日は、夕方午後四時から短冊奉納（一枚百円）などの行事を執り行ないます。夏の夜に、それぞれのお願い事を胸に、どうぞお参り下さい。

名称 七夕祭

日時 平成二十二年七月六日～七日

午後四時～午後十時まで

場所 大阪市北区茶屋町十二番五号

網敷天神社 御旅社 境内

お問い合わせ 網敷天神社 御旅社まで

口蹄疫問題

先月より宮崎県における家畜の伝染病、口蹄疫の問題が大変深刻な状況となっております。既に報道などでもご承知の方も多いかと思いますが、この口蹄疫という病気に罹った牛や豚は流通に乗せる事は出来ず、人には無害であつても殺処分される以外ありません。これまで、「美味しく食べてもらえるように」と育ててきた牛や豚を、何にも用いられない事なく処分される農家の方の心痛は如何ばかりかと思えます。

「人は生きる為に、家畜を育てて、命を頂く」生きるために家畜を殺す事は、人として負い背負わなければならない生命の定めです。しかしながら、現代社会ではその定めを執行を目の当たりにする機会が殆どありません。故に生きるという事の大切さを忘れがちです。「いただきます」「ごちそうさま」はそういった定めの中で消えていった生命への感謝をあらわす言葉です。いま一度、生きている事への感謝の心でもって一食一食に接し、いま口蹄疫問題で苦しまれる農家の方々を、私どもは応援しなければなりません。

歯の衛生週間

今月四日からは「歯の衛生週間」です。当宮の末社 歯神社では例祭が斎行され、各地では歯にちなむイベントが催されます。この歯ですが、いうまでもなく人間にとつて非常に大事なものであり、既に紀元前三五〇〇年ほど昔のメソポタミア文明の時代には虫歯についての記録が残っています。いつの時代も歯に悩む人は多かつたようです。この現代、八十歳まで二十本の元気な歯が残るよう、毎日歯磨きをいたしましょう。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、

au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜（神主）

白江 秀知

